

2022年11月7日
株式会社ウェンティ・ジャパン

共同出資する合同会社が秋田大学と共同研究契約を締結

コスモエコパワー株式会社（代表取締役社長：野地 雅禎、以下「コスモエコパワー」）が主体となり、株式会社ウェンティ・ジャパン（代表取締役社長：佐藤 裕之）、清水建設株式会社（代表取締役社長：井上 和幸）、石油資源開発株式会社（代表取締役社長：藤田 昌宏）の4社で出資する秋田中央海域洋上風力発電合同会社（代表職務執行者：塩川 要、以下「本合同会社」）は、風力発電産業の発展に向けた取り組みの一環として、秋田大学 国際資源学研究科及び理工学研究科と風力発電関連の技術開発に関する共同研究（以下「本共同研究」）契約を締結したことをお知らせいたします。

本共同研究は、国内初の風力専門事業者として風車運転・保守の実績を培ってきたコスモエコパワーの知見や技術、データの活用を主軸として、今後発展が期待される秋田県の風力産業の技術基盤づくりと風力産業を支える技術人材の育成に貢献することを目指します。

本合同会社では、2019年から秋田県男鹿市、潟上市及び秋田市沖洋上風力発電事業の開発に積極的に取り組んでおり、国内全体で喫緊の課題である再生可能エネルギーの普及・促進に向けて、秋田県での風力発電産業の発展に寄与してまいります。

<共同研究概要>

研究テーマ	教授名	内容
①余剰電力の地層貯蔵に関する研究	今井 忠男教授 (国際資源学研究科)	余剰電力を有効活用するため、電力を使い圧縮空気を地層貯蔵し、地上に開放する際に電力として取り出す蓄電方法を研究する。
②気象・運転データに基づく発電量および故障率の将来予測	古林 敬顕准教授 (理工学研究科)	秋田県内における 100%再生可能エネルギーのシステム構築に向け、洋上風力の発電量予想モデルを気象データおよび風車データから研究する。
③超音波を用いたブレードの損傷調査に関する研究	福田 誠講師 (理工学研究科)	広範囲かつ薄い素材の裏側、内部までを一度に監視可能な Lamb 波を利用し、目視不可なブレード損傷を検知する手法を研究する。



2022年10月17日に行った秋田大学内での締結式の様子

(左から古林准教授、今井教授、塩川代表職務執行者、福田講師)



研究室での議論の様子

以上